

## 財務戦略

## 持続的な成長と 安定的な株主還元を実現する

代表取締役 副社長執行役員  
田村 裕保

### 1. Vision2030の実現に向けた キャッシュアロケーション方針

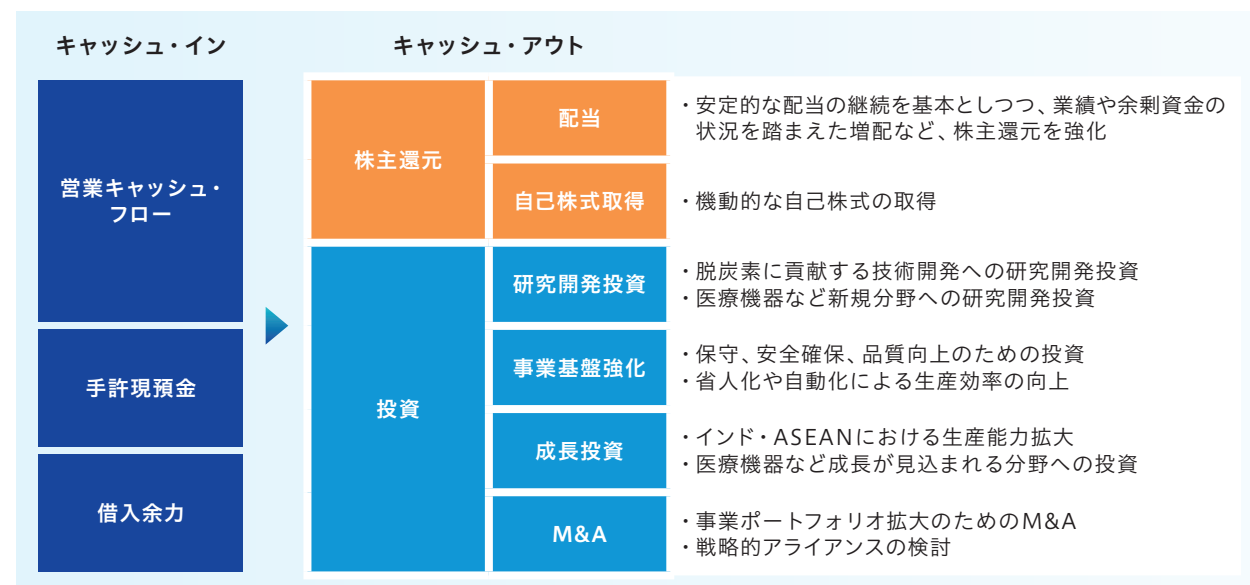
当社グループは、Vision2030で掲げる「既存市場の深耕」「海外事業の拡大」「新規分野の開拓」を通じて、持続可能な企業価値の向上を目指しています。第5次グループ中期経営計画では、「変革への挑戦」をスローガンに掲げ、将来に向けた“種まき”と“刈り取り”の両面を意識しつつ、事業スピードの加速を図ることで、成長機会の最大化を推進しています。

こうした中長期的な成長戦略を支える財務戦略として、営業キャッシュ・フロー、手許現預金、借入余力を活用しながら、成長投資・財務健全性・株主還元のバランスを最適化することを目指します。特に、グローバルベースでの効率的な資金管理体制の強化を重要な課題と位置づけており、地域ごとの資金需要や事業特性を踏まえた柔軟かつ戦略的な資金配分を進めます。

また、リージョナル経営の推進により、各地域のニーズに即した技術開発体制やマーケティング機能の強化を図り、自動車・鉄鋼分野以外の市場開拓、事業ポートフォリオの拡大、新規分野の開拓にも積極的に取り組んでいます。具体的には、医療機器など成長分野への投資、インド・ASEAN地域での生産能力拡大、省人化・自動化による生産効率向上、脱炭素技術への研究開発投資、戦略的M&Aやアライアンスの検討など、多面的な施策を展開します。

さらに、資本効率の向上と財務ガバナンスの強化を目的として、政策保有株式の縮減や自己株式の取得にも取り組んでおり、資本構成の最適化を通じて、企業価値の持続的な向上を図ります。

これらの取り組みを通じて、グローバルでの効率的な資金運用を検討し、現預金残高の圧縮や資金管理の徹底を進めることで、財務ガバナンスのさらなる強化と企業価値の持続的な向上を図ります。



### 2. 資本効率の向上

当社では、資本コストを意識した経営の実現に向けて、既存事業の深耕および新規分野の開拓を通じて収益基盤の拡大を図るとともに、資本効率や財務健全性を踏まえた、バランスの取れた資本構成の維持に努めています。また、投資判断においても資本コストを重要な指標として位置づけており、各投資案件について、資本コストを上回るリターンが見込めるかを慎重に検討した上で、自己資本を活用した設備投資やM&A、さらにはR&Dへの積極的な投資を進めています。

このような方針のもと、成長投資と株主還元の両立を図ることで、持続的な企業価値の向上を目指します。適切なバランスシート管理を通じて、Vision2030ではROE10%以上(第5次グループ中期経営計画では8%以上)の達成を目標としており、詳細な取り組みについては、取締役会において十分な議論を重ねた上で、今後も継続的に情報開示を行います。

### 3. 株主還元への取り組み

当社グループは、株主の皆さまへの利益還元を経営上の重要課題の一つと位置づけており、業績動向だけでなく、配当性向、将来の事業展開に必要な内部留保の水準などを総合的に勘案し、利益配分を決定しています。

配当につきましては、業績や将来の事業展開に必要な内部留保の水準を踏まえ、連結配当性向30%程度を目安に設定していますが、成長のための投資資金および財務基盤の安定性が一定程度確保されていると判断し、当面はこの方針を上回る水準での配当を実施する方針です。また、将来的なROE向上など資本効率の改善を目的として、自己株式の取得についても機動的に検討します。

なお、直近では、2025年8月7日開催の取締役会において、取得価額上限50億円の自己株式取得を決議しており、今後も、適切なキャッシュアロケーションとバランスシート管理を通じて、資本効率の向上と株主還元の両立を図り、株主価値の向上に努めていきます。

#### 株主還元の実績

